令和２年度　学校評価アンケート集計結果　考察

【生　徒】　回収率　９３．５％

・たいへんそう思う（1），ややそう思う（2）の合計が８０％を超えた肯定的意識は昨年度の２１項目から，本年度は１０項目に減少した。これはアンケート項目４２に対して凡そ４分の１の項目がポイントを下げたことになる。コロナウイルス対策による教育活動の縮小に伴うものも関連すると思われるが，一口にそれだけを原因と捉えてはならず，これからの本校の学校教育・指導のあり方を再考していく材料としたい。

特にコロナウイルス対策に起因すると考えられるものとして８「生徒会や委員会活動・係活動に積極的に取り組んでいる」，９「体育祭・合唱コンクール・輝秋祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる」の２項目はいずれも５ポイントマイナスとなっている。また，２３「校外学習（修学旅行・林間学校・校外学習）は楽しく充実している」に至っては５５ポイントのマイナスとなった。これらの質問項目については行事の中止や活動内容の縮小などを余儀なくされたものであり，そのために肯定的意見が減少した可能性が考えられる。

他の項目においては，１１「授業でのノート整理やワークの活用をきちんと行っている」はマイナス５ポイント，１８「宿題や課題を家でおこない提出している」はマイナス７ポイント，１９「予習・復習など家庭学習に取り組んでいる」はマイナス５ポイントと下降した。生徒の学習習慣を確立させるための手立てを講じる必要がある。

また，基本的生活習慣についても，２９「丁寧な言葉遣いで話すことができる」はマイナス５ポイント，３０「頭髪や服装の決まりを守り，身だしなみを整えるようにしている」はマイナス４ポイント，３２「スマートフォンやインターネット，ゲーム等は家での約束やマナーを守って使っている」はマイナス５ポイント，３４「悪口や仲間はずれなど人の嫌がることをしていない（LINE はじめ SNS 等を含む）」はマイナス４ポイントと，多くの項目が昨年の結果を下回った。特に SNS をはじめとしたスマートフォン等の扱いについて，トラブルの原因となったこともあったので，今後は家庭や外部機関との連携なども視野に入れて，基本的な生活習慣の確立を図りたい。

教育課程においては，２１「学活の授業などで将来の進路や職業について考える機会がある」がマイナス６ポイント，２２「総合的な学習の時間で体験的な学習や調べ学習に意欲的に取り組んでいる」がマイナス１０ポイントと大きくポイントを下げた。コロナウイルス対策に起因する部分はあるかもしれないが，教育課程を工夫し学習の目的から活動の方法を十分に検討していく必要がある。

最後に，１３「先生の指示や説明，板書はわかりやすい」はマイナス７ポイント，１４「先生は理解できない所をていねいに教えてくれる」はマイナス５ポイント，３５「悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生がいる」はマイナス４ポイント，３６「自分のことをよく理解してくれる先生がいる」はマイナス５ポイント，３８「委員会や係活動での自分の取り組みを認めてくれる先生がいる」はマイナス１０ポイント，４１「先生はいじめに対してきちんと指導し，解消してくれる」はマイナス６ポイントと，教員の資質によるところが大きな原因と捉えられる肯定意見の減少があ

った。教員の資質向上が急務であり，大きな課題と捉えられる。そんな中，４０「先生は誰でも同じように注意している」はプラス５ポイントと今回のアンケートの中では大きく数値を伸ばした。それでも肯定意見は６６％と今一歩の数値であり，今後も積極的な生徒指導を念頭に置く必要がある。更に生徒一人ひとりに目を向け，心を向ける指導を行っていきたい。

【保護者】　回収率　９０．１％

＜昨年度の同様な質問で下降した項目＞
・「明るく楽しく学校生活を送っている」・・・・・・・・・・・・・・・・・８６％（昨年８８％）
・「学校の様子や友人の話をよく話す」・・・・・・・・・・・・・・・・・６８％（昨年７１％）
・「旅行的行事や体育祭・合唱コンクール
　輝秋祭などの行事は有意義と感じている」・・・・・・・・・・・・・・７３％（昨年９４％）
・「授業がわかりやすいと言っている」・・・・・・・・・・・・・・・・・７０％（昨年６９％）
・「宿題や提出物など確認をしている」・・・・・・・・・・・・・・・・・５７％（昨年６０％）
・「清掃や奉仕作業ができている」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１％（昨年６８％）

・たいへんそう思う（1），ややそう思う（2）の合計が８０％を超えた肯定的意識は昨年度の５項目から，本年度は４項目に減少した。減少した項目は合唱コンクール，輝秋祭などの行事についての項目であり，生徒同様コロナウイルス対策による行事の縮小が起因しているものと捉えられる。また，３「部活動では，充実した活動をしている」では４ポイント低下しており，これもコロナウイルスの影響が考えられるが，そもそも肯定的意識が６７％と高い水準にあるわけではないため，数少ない部活動の時間をより充実したものにしていくために教員の意識を変える必要がある。
　７「授業や活動の前に黙想の時間があることを知っている」が７ポイント低下し，３７％となった。付随して１２「お子様の宿題や提出物などの確認をしている」は肯定意識が３３％と低く，家庭での生徒と保護者の会話の機会が少ないか，学校の話をしていない可能性を示唆している。
　昨年度と比較してポイントが増加した項目について、１０「お子様は，授業をわかりやすいと言っている」がプラス６ポイントで，２３「教職員は，生徒の気持ちを理解して対応している」がプラス８ポイント，２４「教職員は，話しやすい，相談しやすいと感じている」はプラス９ポイントと，教職員に関する項目で肯定的に捉えていただいた部分もあった。ただ，それらの数値も５０～６０後半の数値となっており，これらをさらに高い数値で安定させられるように努力していきたい。また，増減はあまりなかったが，２５「教職員は，生徒の部活や委員会活動等，適切に指導している」，２６「学校は，いじめは絶対に許されないこととして，適切な指導を行っている」，２７「学校は，生徒への進路指導・キャリア教育をしっかり行っている」の３項目についても５０～６０前半の数値を示しており，先ほどの項目とは逆に，教育課程を含めた教職員の生徒への関わりを再度見つめなおすきっかけとしたい。
　最後に１４「お子様は家庭で読書をしている」は４ポイント増加したが，それでも肯定的意識は３１％だった。本年度は積極的に開智学習で読書を推進した効果で増加したものと捉えたいが，数値はまだまだ低い。読書活動は千葉県が推進している以外にも，来年度施行の学習指導要領の国語編についても読書活動の充実について多く触れられているので，推進を継続して更なる読書活動の発展を図りたい。